

鹿児島県下甑島における植物採集記録

森田 康夫*・片平 高男*

The report of the plant collection on Shimokoshiki-jima Island, Kagoshima Prefecture
Yasuo MORITA・Takao KATAHIRA

はじめに

下甑島は、薩摩半島中部から約20km余り西に離れた東シナ海上に浮かぶ甑島列島の南側に位置し、南北約21km、幅は最も広い南部で約7km、面積はおよそ67km²の列島最大の島である。年平均気温は約19℃、年間降水量は2,300mmに達し、対馬暖流の洗う温暖湿潤な気候下にある。島の地形は上甑・中甑島に比べて急峻で、最高峰の尾岳（604m）や青瀬岳（510m）など500m前後の山々がほぼ南北に並んだ脊梁山脈を形成し、起伏に富んだ地形となっている。海岸線の多くは岩崖地からなり、険しい海食断崖が各地に見られる。河川に相当するような水流はなく、海岸の入り江に沿ってわずかに平地がひらけているにすぎない。

下甑島の植物相については1930年代から報告がみられるが、1959年に鹿児島大学農学部専攻学生 川辺恭助氏が甑島植物目録（未発表）を表し、甑島列島全体で854種の高等植物を記録している。その後1964年に初島住彦氏が「鹿児島島の自然」の中でその概要を発表し、本格的な報告は同氏による1992年発表の「鹿児島島の植物」における『甑島の植物』が最も詳しい。同氏はその中で、甑島列島中にサンコカンアオイ、コシキギク、コシキジマハギ、コシキチドリの4種をこの島の固有種とするとともに、多数の南方系及び北方系の植物や満鮮系の植物を紹介して、植物地理学上きわめて重要な島であるとしている。

当県立博物館における下甑島の植物資料の収集はやや遅れ、前述の川辺氏や初島氏からの寄贈によるものが主であった。1994年に当館学芸主事の寺田仁志が収集したものの、現在までの収蔵資料数はシダ植物が75種、種子植物が56種の計131種にすぎない。

今回、県内外の豊富な自然資料を収集して標本化し収蔵する目的で実施している「触れ見る知る自然資料収集整備事業」に基づき、2005年の6月1日から3日までの3日間にわたって、列島中最も植物の豊富な島といわれる下甑島において植物

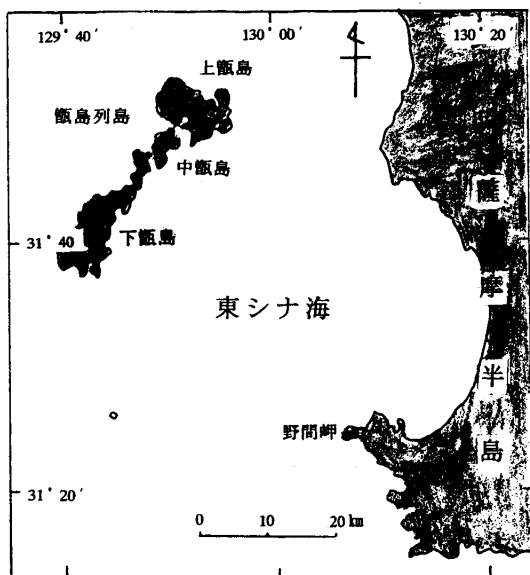


図1 下甑島位置図

* 〒892-0853：鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

資料の収集を実施したのでその結果を報告する。

3日間の収集の結果、シダ植物を22科40種、種子植物を42科90種採集し、標本化して収蔵した。これら130種の収蔵資料のうち、シダ植物13種と種子植物79種の合わせて92種が下甑島における当館の新収蔵資料となり、さらにそのうち、サンコカンアオイをはじめとする6種が当館全体における初収蔵資料となった。

また、収蔵にあたり、収集植物の同定で元当館学芸指導員の丸野勝敏氏、疑問種等の同定で鹿児島大学名誉教授の初島住彦氏、さらに収蔵資料の標本化と同定で植物ボランティアの篠崎チサ氏にもお世話になった。この場を借りて厚くお礼申し上げる。

1 資料収集地の概要

主な収集地の状況についてその概略を述べる（図2参照）。

(1) 尾岳

標高604mの下甑島最高峰で、中腹はスダジイを優占種とする自然林が繁茂しているが、山頂付近のイスノキ林は伐採が進んでいる。固有種のサンコカンアオイをはじめ、北方系のニシノヤマタイミンガサや南方系の植物が混生し、地生ランも豊富で多様な植物相がみられる。

(2) 夜萩丸山

下甑島の最北端にあたる地域で、中甑島を望む海峡に面した高台や林道沿いで、一部公園化した場所もある。林道では北方系のナツトウダイ、海岸近くでは北限種のハママンネングサやハマトラノオなどを採集した。

(3) 鹿島水源地

旧鹿島村南部、大崩浜に至る谷筋の取水ダムの上方で、多様なシダ植物があると聞いて探索したが、めぼしい種は見つからなかった。なお、この地から下流方向の大崩浜近くの道路沿いで、北方系のハンカイソウの1群落を発見した。

(4) 佐之浦

青瀬集落と手打集落を結ぶ旧道沿いの谷筋や道路沿いである。ヘゴやリュウビンタイなど

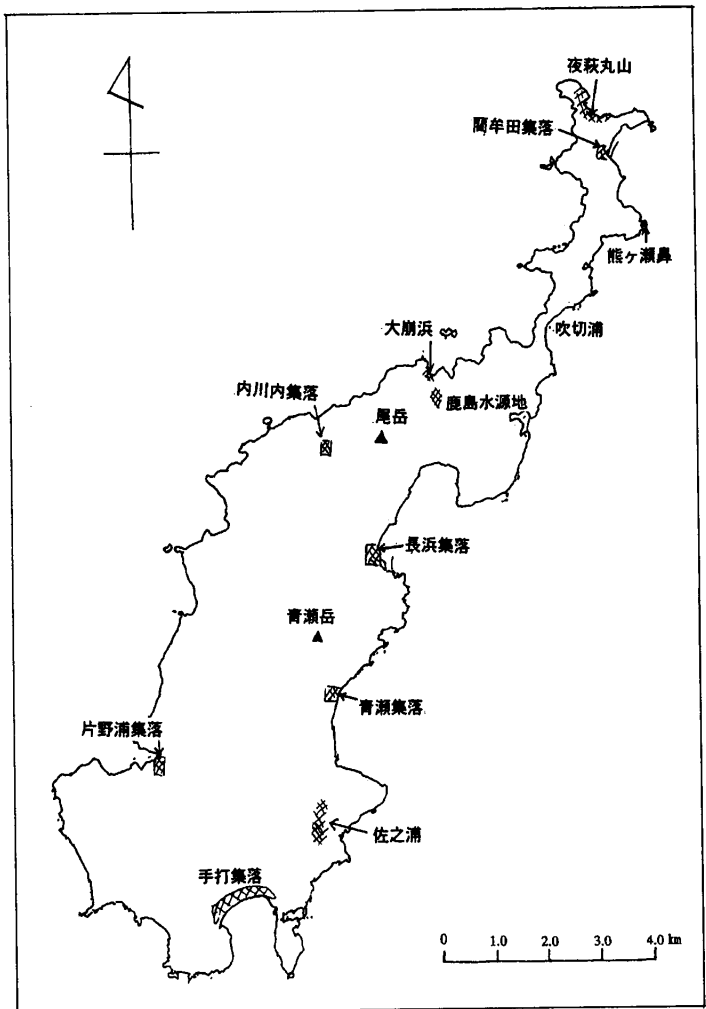


図2 下甑島の植物採集地点

の南方系のシダ植物が多く、同じく北限種のシマイズセンリョウ等もここで採集した。希少種のダンギクもこの地で見つけたが、幼個体で花もなかったので採集していない。

(5) その他

南限種のホタルブクロは、青瀬岳西方の林道沿いで多数見られた。満鮮系のダルマガクは北部の蘭牟田集落南方の海岸岩場にある。北方系のツメレンゲは同じく北部の熊ヶ瀬鼻の海岸岩場で採集した。準固有種のサイカイツツジは西方の内川内集落付近で採集したが、各地で見られる。

2 採集した植物について

次項の表は今回の調査で採集した植物資料の一覧である。合計64科130種の高等植物を採集し標本にして収蔵した。短期間で限られた場所のみでの調査であるため採集種数はそれほど多くないが、甌島列島の固有種やこの地が北限や南限となっている種など、分布上注目すべき多くの種を確認し採集することができた。以下、採集したこれらの植物について若干の知見を述べる。

(1) 甌島列島固有種及び準固有種 [表中の備考欄は「固有」、「準固有」と記載]

① サンコカンアオイ *Heterotropa trigyna* ウマノスズクサ科

下甌島の尾岳山頂付近だけに分布するカンアオイのなかまで、照葉樹林の林床に散在的に自生している。同属のキンチャクアオイと混生し、登山道沿いでも割合容易に見つけることができる。サンコとは、3個の花柱が立つ形を仏具の三鈷に見立てたもので、葉の形態だけではキンチャクアオイとの区別はつきにくいだが、花の形で容易に区別できる。

② サイカイツツジ *Rhododendron obtusum* var. *saikaiense* ツツジ科

長崎県の五島列島と本島の甌島列島だけに自生するヤマツツジの変種で、高さ1～2mになる半落葉性の低木である。海岸近くの林縁や岩上に生え、葉はトカラ列島などに分布するマルバサツキに似ており、花期はヤマツツジより遅い5～6月で花色も濃い。下甌島西岸の内川内集落近くで採集したが、道路沿いの各地で見られた。

③ カノコユリ *Lilium speciosum* ユリ科

甌島を代表するユリ科の多年草で、九州南部西岸と甌島列島に分布し、山地の崖や海岸近くの斜面などで広く見られる。薩摩半島西岸の個体はほとんど植栽されたものといわれているが、下甌島の集団は野生のものであると考えられる。花期は7～8月で、6月初頭の採集期には花は全く咲いていなかった。

④ ニシノハマカンゾウ *Hemerocallis aurantiaca* ユリ科

ハマカンゾウに近縁の種で、九州西南部と下甌島の海岸に固有の多年草である。下甌島では個体数が多く、吹切浦や片野浦の海岸の岩場や斜面に大きな群落がある。

(2) 甌島列島を分布の北限とする植物 [表中の備考欄は「北限」と記載]

① ハママンネングサ (別名シママンネングサ) *Sedum formosanum* ベンケイソウ科

九州南部から琉球、台湾、フィリピンに分布し、海岸の岩場に生える多肉質の多年草で、

表 下甌島における収集資料一覧

シダ植物 Pteridophyta

科名	和名	学名	採集地	備考
ヒカゲノカズラ科	オニトウゲシバ	<i>Lycopodium serratum</i> var. <i>longipetiolatum</i>	尾岳	
	ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i>	尾岳	
	ミズスギ	<i>Lycopodium cernuum</i>	尾岳	
イワヒバ科	イワヒバ	<i>Selaginella tamariscina</i>	佐之浦	
	カタヒバ	<i>Selaginella involvens</i>	尾岳	
トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	尾岳	
ハナヤスリ科	オオハナワラビ	<i>Botrychium japonicum</i>	尾岳	
リュウビнтаイ科	リュウビнтаイ	<i>Angiopteris lygodiifolia</i>	佐之浦	南方系
ゼンマイ科	シロヤマゼンマイ	<i>Osmunda banksiifolia</i>	佐之浦	
キジノオシダ科	キジノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i>	鹿島水源地	
ウラジロ科	コンダ	<i>Dicranopteris linearis</i>	佐之浦	
	ウラジロ	<i>Gleichenia japonica</i>	佐之浦	
フサシダ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i>	鹿島水源地	
ヘゴ科	ヘゴ	<i>Cyathea spinulosa</i>	佐之浦	南方系
コバノイシカグマ科	フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>	片野浦	
	イシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i>	佐之浦	
ホングウシダ科	ホラシノブ	<i>Sphenomeris chinensis</i>	鹿島水源地	
	ハマホラシノブ	<i>Sphenomeris biflora</i>	夜萩丸山	
ツルシダ科	タマシダ	<i>Nephrolepis cordifolia</i>	佐之浦	
ホウライシダ科	イワガネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>	尾岳	
シシラン科	シシラン	<i>Vittaria flexuosa</i>	尾岳	
イノモトソウ科	マツザカシダ	<i>Pteris nipponica</i>	尾岳	
	ハチジョウシダ	<i>Pteris fauriei</i>	尾岳, 佐之浦	
	ナチシダ	<i>Pteris wallichiana</i>	尾岳	
チャセンシダ科	クルマシダ	<i>Asplenium wrightii</i>	片野浦	
	ヌリトラノオ	<i>Asplenium normale</i>	佐之浦	
シシガシラ科	ハチジョウカグマ	<i>Woodwardia orientalis</i> var. <i>formosana</i>	佐之浦	
	オオカグマ	<i>Woodwardia japonica</i>	尾岳	
オシダ科	オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	鹿島水源地	
	イノデ	<i>Polystichum polyblepharum</i>	佐之浦	
	ホソバカナワラビ	<i>Arachniodes aristata</i>	尾岳	
	コバノカナワラビ	<i>Arachniodes sporadosora</i>	尾岳	
	カツモウイノデ	<i>Ctenitis subglandulosa</i>	佐之浦	
ヒメシダ科	ミゾシダ	<i>Stegnogramma pozoii</i>	鹿島水源地	
	ケホシダ	<i>Thelypteris parasitica</i>	尾岳	南方系
イワデンダ科	シケチシダ	<i>Cornopteris decurrenti-alata</i>	尾岳	
	ミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium mettenianum</i>	尾岳	
	シロヤマシダ	<i>Diplazium hachijoense</i>	尾岳	
ウラボシ科	イワヒトデ	<i>Colysis elliptica</i>	尾岳	
	ヒトツバ	<i>Pyrrhosia lingua</i>	尾岳	

[計 22科 40種]

種子植物 Spermatophyta

被子植物 Angiospermae 双子葉類 Dicotyledoneae

科名	和名	学名	採集地	備考
ドクダミ科	ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>	佐之浦	
クワ科	ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	尾岳	
イラクサ科	ハドノキ	<i>Oreocnide pedunculata</i>	佐之浦	南方系
	サンショウソウ	<i>Pellionia minima</i>	尾岳	
	オオサンショウソウ	<i>Pellionia radicans</i>	尾岳	
ウマノスズクサ科	サンコカンアオイ	<i>Heterotropa trigyna</i>	尾岳	固有・初
	キンチャクアオイ	<i>Heterotropa hexaloba</i> var. <i>perecta</i>	尾岳	北方系
ナデシコ科	カワラナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> var. <i>longicalycinus</i>	吹切浦	北方系
	ウシオツメクサ	<i>Spergularia marina</i>	吹切浦	南限
キンポウゲ科	コバノボタンヅル	<i>Clematis pierotii</i>	尾岳	
	ウマノアシガタ	<i>Ranunculus japonicus</i>	尾岳	
ベンケイソウ科	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonicus</i>	熊ヶ瀬	北方系
	ハママンネングサ	<i>Sedum formosanum</i>	夜萩丸山	北限
	タイトゴメ	<i>Sedum uniflorum</i> subsp. <i>oryzifolium</i>	夜萩丸山 ・熊ヶ瀬	
ユキノシタ科	コガクウツギ	<i>Hydrangea scandens</i>	尾岳	
トベラ科	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>	尾岳	
バラ科	ヤブヘビイチゴ	<i>Duchesnea indica</i>	尾岳	
	シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis indica</i> var. <i>umbellata</i>	尾岳	
	テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i>	熊ヶ瀬	
	リュウキュウバライチゴ	<i>Rubus croceacanthus</i> var. <i>maximowiczii</i>	佐之浦	南方系
	ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	尾岳, 鳥ノ巣山	
	ピロードカジイチゴ	<i>Rubus ribisoideus</i>	尾岳	
	ホウロクイチゴ	<i>Rubus sieboldii</i>	佐之浦	
マメ科	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>	夜萩丸山	
	ミヤマトベラ	<i>Euchresta japonica</i>	尾岳	
	コマツナギの一種 (和名はなし)	<i>Indigofera esquirolii</i> Sev.	夜萩丸山	帰化・初 (新記録)
ミカン科	ミヤマシキミ	<i>Skimmia japonica</i>	尾岳	
トウダイグサ科	ナツトウダイ	<i>Euphorbia sieboldiana</i>	夜萩丸山	北方系
	ヤマアイ	<i>Mercurialis leiocarpa</i>	尾岳	
ニシキギ科	コクテンギ	<i>Euonymus tanakae</i>	夜萩丸山	南方系
ブドウ科	ノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	夜萩丸山	
マタタビ科	シマサルナシ	<i>Actinidia rufa</i>	鹿島水源地	
スミレ科	タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i>	夜萩丸山	
キブシ科	ナンバンキブシ	<i>Stachyurus praecox</i> var. <i>lancifolius</i>	尾岳	
セリ科	ウマノミツバ	<i>Sanicula chinensis</i>	佐之浦	
	ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>	夜萩丸山	

科名	和名	学名	採集地	備考
ツツジ科	サイカイツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i> var. <i>saikaiense</i>	内川内	準固有
ヤブコウジ科	モクタチバナ	<i>Ardisia sieboldii</i>	佐之浦	
	ツルコウジ	<i>Ardisia pusilla</i>	尾岳	
	シマイズセンリョウ	<i>Maesa tenera</i>	佐之浦	北限
	イズセンリョウ	<i>Maesa japonica</i>	尾岳	
サクラソウ科	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>	尾岳	
	ハマボッサ	<i>Lysimachia mauritiana</i>	吹切浦	
エゴノキ科	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i>	佐之浦	
ガガイモ科	クロバナイヨカズラ	<i>Cynanchum japonicum</i> forma <i>puncticulatum</i>	夜萩丸山	初収蔵
ヒルガオ科	ノアサガオ	<i>Ipomoea indica</i>	熊ヶ瀬	南方系
クマツヅラ科	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>	佐之浦	
シソ科	キラソウ	<i>Ajuga decumbens</i>	尾岳	
	トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>	佐之浦	
	コバノタツナミ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>parvifolia</i>	尾岳	
ナス科	イヌホウズキ	<i>Solanum nigrum</i>	佐之浦	
ゴマノハグサ科	ハマトラノオ	<i>Pseudolysimachion sieboldianum</i>	夜萩丸山	北限
アカネ科	ヒメアリドウシ	<i>Damnacanthus indicua</i> f. <i>microphyllus</i>	尾岳	
スイカズラ科	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	尾岳	
	ハマニンドウ	<i>Lonicera affinis</i>	夜萩丸山	
ウリ科	アマチャヅル	<i>Gynostemna pentaphylla</i>	尾岳	
キキョウ科	ホタルブクロ	<i>Campsnula punctata</i>	長浜～手打林道	南限
キク科	セイヨウノコギリソウ	<i>Achillea millefolium</i>	長浜～手打林道	
	オトコヨモギ	<i>Artemisia japonica</i>	佐之浦	
	ダルマガク	<i>Aster spathulifolius</i>	熊ヶ瀬	満鮮系・初
	ハマベノギク	<i>Heteropappus hispidus</i> subsp. <i>arenarius</i>	鳥ノ巣山	
	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>	佐之浦	
	ニシノヤマタイミンガサ	<i>Cacalia yatabei</i> var. <i>occidentalis</i>	尾岳	南限
	ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i>	尾岳	
	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	吹切浦	
	ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>	長浜～手打林道	
	ハンカイソウ	<i>Ligularia japonica</i>	鹿島水源地	北方系
	オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	尾岳	

[計 34科 68種]

科名	和名	学名	採集地	備考
イネ科	ハマヒエガエリ	<i>Polypogon monspeliensis</i>	熊ヶ瀬	
	ミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>	尾岳	
カヤツリグサ科	シラスゲ	<i>Cyperus doniana</i>	尾岳	
	アンペライ	<i>Machaerina rubiginosa</i>	片野浦	
サトイモ科	ナンゴクウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>thunbergii</i>	尾岳	
ユリ科	ソクシンラン	<i>Aletris spicata</i>	尾岳	
	クサスギカズラ	<i>Asparagus cochinchinensis</i>	吹切浦	
	シライトソウ	<i>Chionographis japonica</i>	尾岳	
	キキョウラン	<i>Dianella ensifolia</i>	夜萩丸山	
	ニシノハマカンゾウ	<i>Hemerocallis aurantiaca</i>	吹切浦	準固有・初
	テッポウユリ	<i>Lilium longiflorum</i>	片野浦	
	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i>	夜萩丸山	準固有・初
	オモト	<i>Rohdea japonica</i>	尾岳	初
	ハマサルトリイバラ	<i>Smilax sebeana</i>	夜萩丸山	北限
ヒガンバナ科	ユリズイセン	<i>Alstroemeria pulchella</i>	内川内	栽培逸出
ヤマノイモ科	ツクシタチドコロ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	鹿島水源地	
ショウガ科	ハナミョウガ	<i>Alpinia japonica</i>	尾岳	
ラン科	ツクサシュスラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>commelinoides</i>	尾岳	南方系
	シュスラン	<i>Goodyera velutina</i>	尾岳	
	ミヤマウズラ	<i>Goodyera schlechtendaliana</i>	尾岳	
	ハチジョウシュスラン	<i>Goodyera hachijoensis</i>	尾岳	
	ユウコ克蘭	<i>Liparis formosana</i>	佐之浦	南方系

[計 8科 22種]

総計 64科130種

下甌島が分布の北限である。夜萩丸山公園の海岸近くの崖上で採集した。

② シマイズセンリョウ *Maesa tenera* ヤブコウジ科

九州南部以南から南西諸島、台湾、中国南部の常緑樹林に生える常緑の低木で、関東以西に広く分布するイズセンリョウに比べて鋸歯が多く、葉の裏面の葉脈が顕著に浮き出る点異なる。佐之浦の林縁で採集した。

③ ハマトラノオ *Pseudolysimachion sieboldianum* ゴマノハグサ科

下甌島以南の宇治群島、南西諸島の海岸の岩場に生える常緑の多年草で、秋に紫色の花が穂状に多数つく。夜萩丸山公園の海岸の崖地で採集した。

④ ハマサルトリイバラ *Smilax sebeana* ユリ科

九州南部から南西諸島、台湾の海岸近くの林縁や路傍に生えるつる性の常緑低木で、上甌島が北限にあたる。下甌島では普通に見られ、夜萩丸山公園付近の路傍で採集した。

(3) 甌島列島を分布の南限とする植物 [表中の備考欄は「南限」と記載]

① ウシオツメクサ *Spergularia marina* ナデシコ科

北海道から九州までの砂浜海岸や荒地に生える1年草で、県本土の加治木や荒崎が南限とされてきた。今回の採集は下甑島では初めての記録と考えられ、他の集団が埋め立て等によって失われたとされている中で貴重な生育確認と思われる。下甑島北部、吹切浦の海岸近くの造成地で採集した。

② ホタルブクロ *Campsnula punctata* キキョウ科

北海道南西部から九州南部までの山地や丘陵に生える多年草で、南限の下甑島では中央部から西岸の林道沿いに割合広く生育している。本土の個体に比べて花期が遅く7~8月頃に開花し、花弁は白い。今回の採集行はホタルブクロの開花期には早すぎたが、唯一花の咲いている個体を見つけ採集することができた。

③ ニシノヤマタイミンガサ *Cacalia yatabei* var. *occidentalis* キク科

本州の中部地方から九州南部のやや湿った林内に生える多年草で、下甑島の尾岳周辺が南限地となっている。尾岳では、山頂直下の登山道周辺にやや大きな個体群が見られる。

(4) 満鮮系の植物 [表中の備考欄は「満鮮系」と記載]

満鮮系の植物とは、中国の東北部(旧満州地方)や朝鮮半島と共通する植物のことをいい、日本では九州西部や山口県西部が主な分布域となっている。新生代第4紀のウルム氷期に九州と朝鮮半島が陸続きになった時代に、大陸系の植物が侵入してそのまま根付いたものと考えられている。

ダルマガク *Aster spathulifolius* キク科

日本では中国地方西部と九州西岸の海岸の岩場に希に生える多年草で、下甑島は数少ない生育地のひとつとして知られ、分布の南限でもある。採集地は北部東岸の熊ヶ瀬の海岸で、時期が早く、花のない小さな個体しか見つけられなかった。

(5) 下甑島が北限地に近い南方系の植物 [表中の備考欄では、南方系と記載]

① リュウビンタイ *Angiopteris lygodiifolia* リュウビンタイ科

太平洋岸では伊豆諸島や東海、四国南部に分布、西岸の北限は熊本県の天草地方

② ヘゴ *Cyathea spinulosa* ヘゴ科

太平洋岸では伊豆諸島、紀伊半島南部、四国南西部までに分布、西岸は五島列島と天草地方まで。島内の瀬尾滝付近の自生地は、『ヘゴ自生北限地帯』として国の天然記念物に指定されている。

③ ケホシダ *Thelypteris parasitica* ヒメシダ科

九州中南部以南には普通に分布し、それ以北では伊豆諸島、伊豆半島、四国南端、五島列島、天草地方で希に産する

④ ハドノキ *Oreocnide pedunculata* イラクサ科

太平洋岸では伊豆半島~紀伊半島南部と四国南西部まで分布するが、九州西岸では甑島付近と串木野あたりが北限となる

⑤ リュウキュウバライチゴ *Rubus croceacanthus* var. *maximowiczii* バラ科

宮崎県の都井岬～薩摩・大隅半島の中部～下甌島を結ぶ線が北限とされるが、基本種のオオバライチゴと混生するため分類が混乱している点もある

⑥ コクテンギ *Euonymus tanakae* ニシキギ科

九州西岸、特に五島列島から熊本県の海岸以南に分布する

⑦ ノアサガオ *Ipomoea indica* ヒルガオ科

太平洋岸では伊豆半島～紀伊半島南端まで分布するが、本県では甌島列島が北限

⑧ ツユクサシュスラン *Goodyera foliosa* var. *commelinoides* ラン科

県本土北部が北限で、南西諸島から熱帯アジアまで広く分布

⑨ ユウコクラン *Liparis formosana* ラン科

九州南部から南西諸島、台湾、インドまで広く分布。北限は県本土北西部と甌島列島

(6) 下甌島が南限地に近い北方系の植物〔表中の備考欄は「北方系」と記載〕

① キンチャクアオイ *Heterotropa hexaloba* var. *perecta* ウマノスズクサ科

四国・九州の林床に固有、薩摩・大隅半島が南限

② カワラナデシコ *Dianthus superbus* var. *longicalycinus* ナデシコ科

本州～九州の草地や路傍に分布、南限は大隅半島の高隈山

③ ツメレンゲ *Orostachys japonicus* ベンケイソウ科

本州から九州南部の岩場に希に分布、南限は大隅半島南部の佐多

④ ナットウダイ *Euphorbia sieboldiana* トウダイグサ科

北海道から九州に分布、南限は本県の霧島山系、紫尾山と甌島列島

⑤ ハンカイソウ *Ligularia japonica* キク科

本州の中部地方から九州に分布、南限は大隅半島の中南部

(7) 新たな帰化植物〔表中の備考欄は「帰化」と記載〕

コマツナギの一種（和名はなし）*Indigofera esquirolii* Sev. マメ科

夜萩丸山公園の海岸近くの道路沿いで採集したコマツナギに似たマメ科の植物については、図鑑等でも該当するものがなく、初島氏に鑑定を依頼したところ、中国の広西チワン族自治区や貴州省、雲南省に自生するコマツナギの一種と判明した。道路ののり面に吹き付ける種子の多くが中国などから取り寄せられているとも聞いており、それに伴う新たな帰化植物と考えられる。初島氏によると日本新記録で、和名もまだついていないとのことである。

おわりに

以上、下甌島において収集した64科130種の植物についてその概要を報告した。わずか3日間という短い期間であり採集した場所も限られているが、サンコカンアオイやサイカイツツジなど4種の固有種及び準固有種、南方系の植物で当地が北限にあたるハママンネングサなど4種の植物とホタルブクロなど3種の南限植物、さらにダルマガクや日本新記録となる新たな帰化植物など分布上貴重な多くの植物を採集し、標本として収蔵することができた。

収集した130種のうち92種は下甌島における新収蔵標本であり、この地における植物収蔵資

料はシダ植物88種、種子植物135種の合計223種となった。しかし、この数値は800種以上といわれる下甑島の植物の3割にも満たない値であり、まだまだ収集量は少ないといわざるを得ない。ただ、当館における初収蔵の種が6種あったことは大きな成果である。

一方、目的としていた植物で採集できなかったものもある。固有種のコシキギクは島の北部にあるとの情報を得て探したが見つからず、希少種のダンギクも幼個体はあったものの、崖地で個体数も少なく採取は遠慮した。また、採集した種でもダルマガクやカノコユリなどは花期が合わず、花・実のない不完全標本しか採集できなかったことは残念である。これらの種については、花期にあたる夏や秋に再度採集を試みたい。

東シナ海上に浮かぶ下甑島は、急峻な崖地に囲まれた山々からなる島である。この地は、南西諸島から北上する熱帯・亜熱帯植物の北限地として、あるいは本州以南に生育する温帯植物の南限地として、さらに中国大陸や朝鮮半島に起源をもつ満鮮系植物の分布域として多様な植物相を有する島となっている。しかし、これまで大規模な開発にさらされることのなかったこの島でも、森林伐採や林道・砂防ダムの建設、護岸工事といった開発は各地で実施されている。過疎化は進んでいるものの、人間活動に伴う土地利用もかなり進み、そのため、植物の生育環境も悪化の一途をたどっているように思われる。分布上貴重な植物が失われることのないように保護の手を加えていくとともに、今後も植物の調査や資料収集を継続的に実施し、この地域の植物相の解明に努めていく必要がある。

引用・参考文献

- 池田豪憲，1995，下甑島の植物相，鹿児島の自然調査事業報告書Ⅱ「北薩の自然」．59－64，
鹿児島県立博物館
- 大野照好，1995，下甑島の植生，鹿児島の自然調査事業報告書Ⅱ「北薩の自然」．65－78，
鹿児島県立博物館
- 鹿児島県環境生活部環境保護課，2003，鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編一
鹿児島県レッドデータブッカー．財団法人鹿児島県環境技術協会．
- 佐竹義輔他・編，1981，日本の野生植物草本Ⅰ～Ⅲ．平凡社，東京．
- 佐竹義輔他・編，1989，日本の野生植物木本Ⅰ～Ⅱ．平凡社，東京．
- 初島住彦，1986，改訂鹿児島の植物目録．1－290，鹿児島．
- 初島住彦，1992，甑島の植物，鹿児島の植物．12，13－18，鹿児島植物同好会．
- 森田康夫，2004，下甑島の植物，下甑村郷土誌．38－45，下甑村，鹿児島．